

授業モデル2 (小学校第6学年 NEW HORIZON Elementary Unit8 My Future, My Dream)

小学校では、伝えたいことを書けるようにするために「聞くこと・話すこと」に十分に慣れ親しませることを目指した授業が大切です。



- 単元名 NEW HORIZON English Elementary 2 Unit 8 My Future, My Dream
- 本時の目標 (4/8)
 - コミュニケーション活動に意欲的に取り組むことができる。
 - 入りたい部活動について伝え合うことができる。
 - 外国語の背景にある文化に対する理解を深める。

※ 本単元の第1時と第4時(本時)の内容を一部入れ替え、本来第1時で学習する「I want to join～」の表現を本時で初めて学習することとしています。

授業充実の3ポイント	主な学習活動	分	○教師の具体的な働きかけ ◇評価
[目標の明確化] ○ 興味・関心が生まれる導入 ○ 課題意識の焦点化と学習課題の設定	1 英語であいさつをする。 2 歌を歌う。(Let's Sing) 3 Small Talk をする。 4 本時のタスクを確認する。 入りたい部活動について伝え合い、書くことができる。	10	○ 英語であいさつをした後、天気・曜日・日付を尋ねる。 ○ 歌を歌うことで、部活動や将来の夢に関する単語や表現を練習する。 (Small Talk の例) A: What sport do you like? B: I like tennis. A: Me, too. Thank you. (How about you?) ○ 後に設定しているALTとのやり取りを具体的にイメージさせ、本時の学習の見通しをもたせる。
○ 解決の予想と見通し	5 Word Link で関係する表現を確認する。 [部活動を表す表現] I want to join ～. 1回目: メトロラーニング 2回目: ラインゲーム (Picture Dictionary を用いてペアで行う) 6 「入りたい部活動」についての尋ね方や答え方を確認する。		○ ゲームの活動を通して、本時で学習する外国語に慣れ親しませる。 ○ デジタルデータ集からワークシートを準備する。 教科書では、将来の夢についても学習するようになっているが、今回は、入りたい部活動のみを扱うことで、児童の負担を軽減するとともに、コミュニケーションの中心となるポイントを絞ることで学びの定着につなげることができるようにする。
[山場の工夫] ○ 自力解決による最初の考え(仮説)の構築 ○ 考えの交流(学び合い) ○ 自力解決による最終的な考えの構築	7 Let's Try③で「入りたい部活動」を友達にインタビューする。 (Let's Try の例) A: What club do you want to join? B: I want to join the volleyball team. A: I see. You want to join the volleyball team. B: Yes. A: Thank you. Bye.	25	○ 目線、リアクション、表情、音量、ジェスチャーを意識させ活動させる。 ○ インタビューを通して、友達が入りたい部活動をメモをしたり、自分の入りたい部活動を答えたりすることができるようにする。 ◇ 自分が入りたい部活動について、インタビューを通して積極的に伝えたり、聞いたりすることができたか。 ○ ペアのやり取りを学級全体で共有し、活動を振り返らせる。
[確かめ見届け] ○ 学習のまとめ ○ 習熟 ○ 振り返り	8 何組かのペアがやり取りを発表する。 9 Let's Read and Write を用いて、本時で学習した表現を書く。(P.89 Unit8①) 10 本時のまとめをする。 I want to join the volleyball team. 11 振り返りカードを記入する。 12 次時の学習について、確認する。		◇ 本時で学習した表現をもとに、自分が入りたい部活動を伝える表現を書き写すなどしながら書くことができたか。 「確かめ見届け」では書き方のポイントを提示し、チェックすることで、正しく標記されているか自分自身で確かめることができるようにする。

【コアティーチャーネットワークプロジェクト外国語科部員】

富吉 浩太郎 (奄美小) 溝口 その (赤木名小) 川上 潔 (大和小) 小水流 奈央佳 (赤徳小)
 小川 達哉 (天城小) 石原 明子 (龍南中) 津原 康 (赤木名中) 傳 真佐美 (金久中)
 別府 友美 (赤徳中) 長薗 誠 (与論中) 新 彰 (奄美市教育委員会) 宮之脇 圭 (大島教育事務所)

令和2年度

学力定着のためのリーフレット 外国語活動・外国語科編
 =コアティーチャーネットワークプロジェクトまとめ=

大島教育事務所

「『主体的・対話的で深い学び』の実現による学力向上プログラム」の一環として行われた本事業で、「質の高い授業」のモデルづくりに取り組みました。大島地区で課題のある観点や領域、技能に焦点を当て、効果的な指導例を紹介していますので、ぜひ参考にして日々の授業に生かしてください。

1 大島地区の外国語科の課題

(1) 「鹿児島学習定着度調査」の結果 (県の平均正答率との差) から

観点	外国語表現	中1		中2	
		H30	R1	H30	R1
外国語理解	言語・文化の知識・理解	0.5	-0.3	-4.8	-1.2
	聞くこと	-1.2	-1.3	-4.1	0.2
	話すこと	1.0	-0.7	-3.7	-0.8
領域	読むこと	-1.3	-1.3	-4.1	-0.6
	書くこと	-1.3	-0.8	-5.5	-1.6
	読むこと	-1.0	-1.0	-4.2	0.7
		1.7	1.4	-4.3	-1.2



- 中1、中2ともに県平均に近づきつつある。
- 中2の経年変化において、課題であった外国語理解の能力(「読むこと」)は改善傾向が見られる。⇒ しかしながら、外国語表現の能力(「話すこと」「書くこと」)には課題が見られる。
- (2) 「鹿児島学習定着度調査」の質問紙等から(5教科を通して)

日頃の授業では、どのような活動をする
ことが多いですか。

次のような授業で
学んでいて、どのように
感じますか。

- 先生の説明を聞く
[小5: 19.1 中1: 30.9 中2: 33.7]
- ペアやグループで考えを出し合ったり、教え合ったりする
[小5: 14.7 中1: 20.4 中2: 21.2]
- 自分でじっくり考える
[小5: 13.9 中1: 13.0 中2: 13.6]
- ◎ 自分たちで調べて、課題を解決する授業
[小5: 52.8 中1: 50.5 中2: 50.9]
- ◎ 難しい課題に挑戦する授業
[小5: 52.3 中1: 46.5 中2: 44.6]
- ◎ 自分たちで考えたり、話し合ったりする授業
[小5: 44.6 中1: 45.2 中2: 47.5]
- 先生の説明の時間が多い授業
[小5: 15.2 中1: 9.6 中2: 7.0]

※「とてもやりがいを感じる」の数値が高かった項目を抽出

上記の現状を踏まえ、児童生徒を授業の中で English Learner ではなく English User にするために、「話すこと」「書くこと」の関連を重視した学習を充実させ、教科書で学んだことを生かす Authentic な活動(児童生徒が内発的に英語を使う必然性がある活動)を設定する手段として、タスク達成型の授業づくりが有効であると考えました。



2 授業づくりのポイント

- 【視点1】 「話すこと」から「書くこと」へつなげる授業構成の工夫
- 【視点2】 学習した内容を自己表現や家庭学習につなげる「確かめ見届け」の工夫

※ 学習課題(Today's Goal や Today's Task 等)は、CAN-DO リストから引用するなどし、「～できる。」という文末表記で設定し、提示します。指導案の「まとめ」には「目標モデル文」を英語でそのまま記入します。

授業モデル1 (中学校2年生 NEW HORIZON English Course 2 Unit 6)

1 授業設定の理由

前述した課題を踏まえ、「話すこと」から「書くこと」への接続を意識した必然性のあるタスクを設定し、授業で学習した内容を自己表現や家庭学習に明確につながる観点から「確かめ見届け」を充実させれば、生徒の学習意欲を喚起するとともに、学習内容の定着が図られるのではと考えて本授業を設定しました。



それでは、授業づくりの視点を踏まえて、令和2年度コアティーチャーネットワークプロジェクトで作成した授業モデルを見てみましょう。

2 授業の概要

(1) 単元名 NEW HORIZON English Course 2 Unit 6 Rakugo in English

(2) 本時の目標 (4/8)

- ア There is/are …の表現を用いて、ものの所在をたずねたり説明したりすることができる。
- イ 既習の言語材料を活用して、自分の意見とその理由を表現することができる。

3 本時の指導のポイント

- 既習事項を活用する必然性がある言語活動を設定することで、生徒の学習意欲を喚起する。
- Information Gap Activityで個々の生徒が「話すこと」によって得た情報を基に、目的意識をもたせ、主体的に「書くこと」へ取り組ませることで、言語材料の効果的な定着を図る。
- 書いた英文を互いに添削させたり、本時のポイントを確認させたりすることで「確かめ見届け」を充実させ、学習内容のより確かな定着を図るとともに、より効果的に家庭学習につなげる。

4 本時の実際

授業充実の3ポイント	主な学習活動	分	〇…教師の具体的な働きかけ ◇…評価
[目標の明確化] 〇 興味・関心が生まれる導入 〇 課題意識の焦点化と学習課題の設定 〇 解決の予想と見通し	1 Greetings and Warm-up (帯活動) (1) ホテルや旅館の絵を見ながら教師の質問に答えた後、ペアで対話活動を行う。 A: Which do you like, a bed or a futon? B: I like a futon. A: You like a futon. Why do you like it? B: (Because) I'm a Japanese! A: Oh, I see. B: How about you? (2) 前時に学習した文型を使った言語活動を行い、3つのホテルの施設・設備等の情報を集める。 (Information Gap Activity) 2 Today's Task 本時のタスクを確認する。 宿泊したいホテルを選んで、より詳しく理由をつけて説明することができる。	10	〇 学校行事(修学旅行)と関連づけることにより、生徒の学習意欲を喚起する。 〇 ホテルや旅館に関連する絵を提示し、言語活動に必要な言語材料を確認させる。 a hot spring / a pool / a shower / a tatami room 〇 ただ質問をするだけでなく、相手の答えにあいづちをうったり、相手の言ったことの確認をしたり、理由をたずねたりするなど、やり取りを継続する態度を育成する。 〇 教師とのインタラクションを通して、言語活動に必要な言語材料を確認させる。 Is(Are) there (a) ~? / Yes, there is(are). / No, there is(are) not. 〇 3種類のワークシートを準備し、それぞれ違う色の用紙に印刷しておく。 ◇ Is there a ~?を活用し、ものの所在をたずねることができたか。 〇 教師とのインタラクションを通して、「より詳しく理由をつける」とはどんなことかに気付かせる。 〇 単元の最後に設定しているALTとのやり取りを具体的にイメージさせ、本時の学習の見通しをもたせる。
[山場の工夫] 〇 自力解決による最初の考え(仮説)の構築	3 Speaking Activity I 集めた情報をもとに、自分が利用したいホテルを選び、理由を説明する言語活動をペアで行う。 [First Choice] I like Hotel (A,B,C) because there is _____.		〇 指名した生徒と教師の即興的なやり取りを通して、言語活動の見通しをもたせる。 〇 Eye Contact, Reaction, Facial Expression等のコミュニケーションポイントを意識させる。

〇 考えの交流(学び合い) 〇 自力解決による最終的な考えの構築	4 Speaking Activity II (1) 3つのホテルについての追加情報を集めるために基本文を使ってペアで質問を考え、教師に質問する。 (2) 追加情報も含めた上で、自分が好きなホテルを選び、理由と意見をペアで伝え合う。 A: Which hotel do you like? B: I like Hotel A. A: Oh, you like Hotel A. Why? B: Because there is a convenience store. I want to buy some ice cream. A: What kind of flavor do you like? 5 Writing Activity 自分が好きなホテルを選び、理由だけでなく自身の意見も加えた英文を書く。 [Final Choice] I like Hotel B because there is a convenience store. I want to buy some ice cream there.	30 〇 各ペアの質問に答えたあと、理由を説明する際に表現の幅を広げられるように追加質問させる。 S: Is there a convenience store near hotel A? T: Yes, there is. What do you want to do there? S: Well... I want to buy some ice cream. T: Oh, you want to buy some ice cream. 〇 指名した生徒と教師との即興的なやり取りを通して、言語活動の見通しをもたせる。 〇 Eye Contact, Reaction, Facial Expression等のコミュニケーションポイントを意識させる。 視点1 〇 First ChoiceからFinal Writingへ段階的に表現に深みをもたせます。 〇 既習の言語材料を活用して、Target Sentenceに+αの自己表現を盛り込むよう、自身の表現の幅をもたせます。 ◇ 自分の意見とその理由を適切に表現することができたか。
[確かめ見届け] 〇 学習のまとめ 〇 習熟 〇 振り返り	6 Peer Feedback 3人グループ内で互いの英文を読み合い、Correction Code Listを基に添削し合う。また、最も説得力のある意見を選ぶ。 7 Consolidation and Self-evaluation (1) 各グループの意見を全体で共有し、本時に活用した表現を習得できたか確認する。 (2) ALTの発言を予想して表現する。 I like Hotel B because there is a hot spring. I want to try it. (3) 自己評価をする。 8 Assignment 本時の学習を生かした課題を示す。 あなたが家族と泊まってみたいホテルとその理由を2文以上で書いてみましょう。	10 〇 Correction Code List(下を参照)を用いて、互いの表現の仕方や内容に関する工夫などの学び合いを促し、自分の考えを適切に伝える力を互いに向上させる。 〇 1人目のチェックは赤ペン、2人目のチェックは青ペンを使用させることで、誰がどんな指摘をしたかが分かるようにする。 視点2 〇 互いの英文文を添削したり、ICT(書画カメラ等)を活用して全体で共有したりすることで、学習内容の確認・定着を図ります。 〇 本時の学習に関する追加の表現活動や、家庭学習での課題等を通して更なる定着を図ります。

(参考 Correction Code List…英文文のチェック項目と記号のリスト)

Code	Type of Error	Example
□	大文字・小文字の間違いがある	you have a nice pen. You
○	符号の間違いがある	Do you have a red pen.○
∧	単語が足りていない	I live in Kagoshima. in
-	3単語のSがない	Doraemon like dorayaki. likes
△	時制の間違いがある (現在形、過去形、未来形、ing形など)	I play soccer yesterday. played
~~~~~	単語のつづりを間違えている	I sutadi English every day. studied